

「情報処理学会論文誌：教育とコンピュータ」の 編集にあたって

中山 泰一^{1,a)}

1. 第3号刊行にあたって

近年、情報処理学会では、教育に係るいくつかの新しい取り組みがされています。たとえば、「会員の力を社会につなげる」研究グループの開設（2011年）、大学情報入試全国模擬試験の実施（2013年）、教員免許更新講習の実施（2014年）、そして、情報処理学会論文誌「教育とコンピュータ」（*IPSJ Transactions on Computers and Education*, TCE）の発行（2015年）です。

TCEの目的や、編集方針については、前号で奥村幹事が書かれています。情報教育に関する研究成果を発表するための場を提供すること、とくに、博士の学位取得を目指す方々が成果発表できる場を提供することは、とても大切なことと考えています。2014年12月に第2号の掲載記事を決定した後、私たちTCE編集委員会は、査読手続きがスケジュール通り進むように心がけてきました。

第3号では、招待論文2編を含めて、7編の記事を掲載することができました。このうち、（掲載記事の決定時点で）3編の主著者は、博士後期課程に在籍している方です。これからも多くの記事が投稿され、掲載されることを願っています。ご投稿をお待ちしております。

なお、情報処理学会のTCE案内サイト (<http://www.ipsj.or.jp/trans/tce.html>) のほか、twitter (http://twitter.com/tce_ipsj) や、facebook (<http://www.facebook.com/tce.ipsj>) で、TCEの広報を行っておりますので、そちらもぜひご覧ください。

2. 本号掲載記事の紹介

本号では、招待論文2編を含む7編の記事を掲載しています：

- 招待論文「Defining Informatics across Bun-kei and Ri-kei」は、日本学術会議で情報学の「参照基準」を作成するにあたり、理系のみでなく文系にわたる情報学

を定義することについて展望するものです。なお、この論文は、Journal of Information Processing (JIP), Vol.23, No.4のpreprintです。引用される場合は、JIPの記事を引用してください。

- 招待論文「エジプトの大学院でのプログラミング教育」は、JICAの海外支援のプロジェクトでエジプト日本科学技術大学を立ち上げ、現地でプログラミング教育を行った著者の体験を紹介するものです。
- 「数式自動採点システムにおける数式入力インタフェースの提案と評価」では、数式自動採点システムにおける数式入力インタフェースを新たに開発し、評価実験を行っています。
- 「数式自動採点システム STACK の行列問題における解答入力方法改善の取り組み」は、数学の行列問題を学習する際の数式自動採点システムにおける数式入力方法を提案し、従来方式より速く解答の数式を入力できることを明らかにしています。なお、著者は、情報教育シンポジウム SSS2014 (<http://ce.eplang.jp/?SSS2014>) において「デモ・ポスター賞」を受賞しています。
- 「組込みシステムのための学習支援システムの開発と実践」は、仙台高等専門学校で組込みシステムの技術者育成のための学習支援システムを開発し、学生、社会人を含めた教育現場での実践により、その有効性を検証しています。
- 「子供のスマートフォン依存を抑制する画面ロックアプリケーション」は、スマートフォン依存症状を改善するアプリケーションを開発し、その有効性を利用者からのレビューやアンケートにより検証しています。
- 「初等中等段階を通じた情報教育の必要性とカリキュラム体系の提案」は（私も著者ですが）、積極的に情報教育を推進している諸外国の状況を整理・分析し、わが国の情報教育の目標を示し、初等中等段階における情報教育の体系的なカリキュラムを提案しています。

¹ 電気通信大学大学院情報理工学研究科
Graduate School of Infomatics and Engineering, The University of Electro-Communications, Chofu, Tokyo 182-8585, Japan

a) nakayama@uec.ac.jp